

平成30年度 北海道福祉のまちづくり賞 受賞者一覧

1 公共的施設部門（1件）

番号	施設名称	所有者	設計者	施設所在地
1	札幌禎心会病院	社会医療法人禎心会	株式会社 日建設計 株式会社 北海道日建設計	札幌市東区北33条東1丁目3-1

2 活動部門（2件）

番号	団体名称	団体所在地	活動内容
1	北海道帯広農業高等学校 農業クラブ	帯広市稲田町西1線9番地	高校生と障がい児が、農業を通じて交流活動
2	一般社団法人日本UD 観光協会	札幌市北区北8条西4丁目18番地4号	高齢者、障がい者が快適な旅を楽しんでいただくため活動

3 福祉用具部門（2件）

番号	福祉用具名称	製作者	製作者住所	特徴
1	苫小牧市福祉トイレカー「とまレット」	苫小牧市	苫小牧市旭町4丁目5番6号	車いす利用者の行動範囲が広がる福祉トイレカー
2	AIRDO新千歳空港 チェックインカウンター	株式会社 AIRDO	札幌市中央区北1条西2丁目オーク札幌ビル8階	ユニバーサルデザインの空港チェックインカウンター

平成30年度 北海道福祉のまちづくり賞 受賞理由

1 公共的施設部門（1件）

- 名称：札幌禎心会病院
- 所在地：札幌市東区北33条東1丁目3-1
- 所有者：社会医療法人禎心会
- 設計者：株式会社 日建設計、株式会社 北海道日建設計
- 受賞理由

【利用者視点を重視しユニバーサル化を目指した病院】

円弧状の形態と敷地内のオープンスペースによる歩道と一体化したゆとりある外部空間は地域住民に貢献するとともに地域のランドマークとなっている。

高齢者や肢体不自由者等の受け入れには万全を期し、車いす駐車スペースのロードヒーティング、車いす対応のトイレ、ベビーシートやオストメイトを設けた多目的トイレ、一段低いカウンターやエレベーターの操作やエスカレーターの転倒防止への配慮、行きたい場所や何らかの情報や注意を示すための表示(サイン)は、個々の文字をわかりやすくしたユニバーサルデザインの書体となっている。

条例に基づく整備基準に適合し、利用者への視点と安全性への配慮や地域への貢献を十分に考えた病院として高く評価された。

2 活動部門（2件）

- 名称：北海道帯広農業高等学校 農業クラブ
- 所在地：帯広市稲田町西1線9番地
- 受賞理由

【高校生と障がい児が、農業を通じて交流活動】

高校の農業クラブと市、社会福祉協議会、ライオンズクラブが連携し、障がいを持った子どもたちと高校生が、播種から管理作業、収穫までの農作業のほか、搾乳体験、森林アトラクションなどの様々な交流活動を行っている。

障がいを持った子どもたちが、毎回楽しみながら、畑に入り土に触れ、野菜の収穫などの体験をし、高校生も障がいを持った子どもたちと交流することにより、ノーマライゼーションの精神を養っている。

平成14年から今年で17回目を迎え、長期間にわたって継続していることも高く評価された。

- 名称：一般社団法人日本UD観光協会
- 所在地：札幌市北区北8条西4丁目18番地4号
- 受賞理由

【高齢者、障がい者が快適な旅を楽しんでいただくために】

誰もが安心・安全な旅を楽しめるようにサポートするため、観光と福祉のサービスに精通した「観光介助士」制度を創設し、様々な観光に同行し活躍している。

このほか、観光地における災害時対応バリアフリーセミナーの開催やユニバーサル観光情報誌「くるくる北海道」を発行し、道内各地のユニバーサルデザイン情報を発信するなど、すべての人が安全・快適に観光ができるユニバーサルデザイン観光の普及と促進に向けた活動が高く評価された。

3 福祉用具部門（2件）

- 名称：苫小牧市福祉トイレカー「とまレット」
- 製作者：苫小牧市
- 所在地：苫小牧市旭町4丁目5番6号
- 受賞理由

【車いす利用者の行動範囲が広がる福祉トイレカー】

苫小牧市では、車いすで利用できるトイレを設置してほしいとの要望があったが、場所の確保や維持管理の面から設置は困難であった。そこで市の公用車としてオリジナルの福祉トイレカーを開発した。

祭りなどの集客性の高い催事等の会場に福祉トイレカーを設置。出入口には車いす用リフトもあり、内部は利便性を考え、広々としたスペースが確保されている。

車いす利用者がトイレの心配をすることなく、行動範囲を広げる大きな役割を果たしていることが高く評価された。

- 名称：AIRDO新千歳空港チェックインカウンター
- 製作者：株式会社 AIRDO
- 所在地：札幌市中央区北1条西2丁目オーク札幌ビル8階
- 受賞理由

【ユニバーサルデザインの空港チェックインカウンター】

すべての人が使いやすく、分かりやすいユニバーサルデザインのカウンターとして、本年1月にリニューアルした。

カウンター幅を拡張し、窓口の数も倍増。このうち車いす利用者や高齢者にも使いやすいようローカウンターも新設し、座りながら案内を受けられるようになっている。

カウンターでは、「サービス介助士」などの資格を取得した社員やスタッフが、高齢者、障がい者をはじめとするすべての人に充実した旅を提供している。

さらに、資格取得のため社員に支援を行うなど、人材の育成が充実していることも高く評価された。